



飛騨市役所



ホームページと SNS でまちの話題を配信中！

5/6

## 市 飛騨市薬草ビレッジ構想推進プロジェクト と憩いの家が薬草入浴パック用のヨモギ栽培をスタート！



市と障がい者自立支援施設・憩いの家（古川町下気多）が協働して新商品「薬草入浴パック」を開発することになり、素材となるヨモギ栽培をスタートしました。憩いの家利用者が県中山間農業研究所の技術指導を受けながら栽培。6～7月に収穫後、乾燥して商品加工し、秋の「薬草フェスティバル」でお披露目予定です。

この日は約200㎡の農地でヨモギ苗を植えました。有志の利用者5人が苗植えに汗を流し「屋外の作業は大好き。ヒット商品になるといいな」などと笑顔で話していました。

憩いの家サービス管理責任者・谷口博亮さんは「利用者の方々にはこうした活動を通して社会とつながり、役立っているということを実感していただくことが大切。今回は香りが良くて人気のあるヨモギですが、今後さまざまな薬草でいろいろ商品化してみたいです」と話していました。



5/11

## 宮川小の児童が宮川下流漁協の協力で稚鮎の放流体験 宮川の鮎の歴史や特徴、生態を学んで放流

宮川小学校の3年生から6年生までの児童5人が、宮川町桑野地内の宮川に稚鮎を放流する体験を行いました。

地域について学ぶことで児童らに郷土への愛着をもってもらおうと、宮川下流漁業協同組合の協力を得て、ふるさと学習の一環で実施されました。

児童らは職員から、宮川の鮎の歴史や特徴を聞き、「宮川の鮎が大きくなるのはなぜですか」「鮎はどうやって食べるのが美味しいですか」などと質問し、熱心にメモをとっていました。

また、それぞれ鮎の入ったバケツを手に川べりに立つと、ゆっくりとバケツを傾けて稚鮎を放流。数回に分けながら体長12センチほどの稚鮎約500匹を川へ放しました。児童らは「かわいい」と声をあげ、浅瀬の岩陰に身を寄せ合う稚鮎の群れを名残惜しそうに見ていました。



5/15

## 交 市が飛騨市外国人材コミュニティセンターを開設 流して楽しく過ごし、安心できる暮らしを

北日本国際事業協同組合がふだん技能実習生の研修場所として使用している施設「飛騨講習センター」の一部を市が借り受け、月に2回、日曜日の午前9時から午後4時に、市内で働く外国人材の皆さんが交流できる拠点「飛騨市外国人材コミュニティセンター」として開設することになりました。

外国人材の皆さんが地域でトラブルなく、安心して暮らし働くことができるよう、日本の文化や生活習慣を知っていただいたり、外国人材同士や地域の人と交流して楽しく暮らしていただくことが目的。事前予約制で、料理づくり、踊りや歌の練習などの活動に無料で利用できます。

古川町の企業で働くベトナム国籍のブイ・ヴァン・ドアンさんは、担当者から利用についての説明を聞き、「施設は、料理を作るのに使ってみたいです」と話していました。



## 5/15 第一線「喫茶室かぐら～作家と学者の会おうところ」を3年ぶりに開催 ～トーク

大型低温重力波望遠鏡「KAGRA」の命名委員会のメンバーだった著名人が、喫茶店のマスターと常連客という設定でゆる～いトークを繰り広げる「喫茶室かぐら～作家と学者の会おうところ」がオンラインで行われました。

とっつきにくい宇宙や各種研究について親しみやすくふれてもらい、市民の皆さんにも興味をもっていただくという催し。天文学者で国立天文台上席教授の渡部潤一さんが「マスター」として進行役を務め、芥川賞作家の小川洋子さん、科学ジャーナリストの青野由利さん、東京大学宇宙線研究所の大橋正健教授らがパネリスト「常連客」として参加。また

当日、ノーベル物理学賞受賞者の梶田隆章さんも飛び入り参加されました。神岡町の田屋文子さんは「なかなかお会いできない方々のお話を聞くことができました。お話がとても楽しくて良かったです」と話していました。



## 5/16 栄 増島保育園でミニトマトの苗植え体験 ～養たっぶりのミニトマト、がんばって育てるぞ!

増島保育園でミニトマトの苗植え体験を行いました。これは「植えて」「育てて」「食べる」楽しさを伝える市の食育事業の一環で、古川町畦畑のトマト農家・坪根邦一さんを講師に迎え、年長児46人が参加しました。

坪根さんは「ミニトマトは栄養がたくさん詰まった野菜です。一株200個を目標に生らせましょう」などとトマトの魅力を教え、この後、園児たちは5～6人のグループになって坪根さんや保育士らの手を借りながらプランターに苗を植えたり、水遣りをしました。植えた後、園児たちは「がんばって育てるぞ」「大きくなってね～」と笑顔を見せていました。

質問コーナーでは、園児が「トマトの花はなぜ黄色いのですか?」と尋ねると、坪根さんは「花粉を運んでくれる虫が好きな色だからです」と答えていました。



## 5/20 将 飛騨古川・町並み景観研究会が発足 ～来ビジョン共有して美しい町並みを後世へ

地元の若手が中心となり、古川町の美しい町並みの成り立ちや幅広い価値について学び、調査や研究を行って今後の保全対策を検討していく「飛騨古川・町並み景観研究会」が発足し、その第1回目となる会合が市役所で開かれました。

この日集まった20代から50代前半のメンバー13人には都竹市長から委嘱状が手渡されました。

都竹市長は「若い年代の人に町並みへの思いを高めてもらい、人を育て、仲間を増やすことが、今後町並み・景観を守り生かしていくことにつながる。先達から学び、研究を重ね、町への熱い思いを一緒に高め、100年200年後に美しい町並みを残せるように頑張っていきたい」とあいさつしました。この日は國學院大学教授で、東京大学名誉教授の西村幸夫さんの講演もあり、参加者は熱心に西村さんの講演に聞き入り、質問をしていました。





飛騨市役所



ホームページと SNS でまちの話題を配信中！

5/21

## 測 市主催の「ドローンスクール」を河合町稲越の友雪館で開講 測量士や林業・防災業務などに従事する社会人8人が受講



ドローンを活用したまちづくりに取り組む市は、市民向けの「ドローンスクール」を、河合町稲越の友雪館で延べ6日間にわたって開講しました。

受講者は測量士を始め、林業や防災業務などに従事する社会人8人。講師は「富山ドローンスクール」のインストラクターが務めました。

講習は2班に分かれて行われ、初日は機体の整備と点検、安全確認や気象などの環境確認、電波障害の有無などについて学んだ後、操作の基本や山の谷間などでGPSが利かなくなった場合など緊急時の実習訓練も行いました。

古川町の坪内友亮さんは「災害復旧の図面を作成する時など、ドローンを使う仕事が増えていますので、操作できなくては仕事になりません。早く操作技術を身につけて業務に生かしたいと思います」と話していました。



5/22

## 新 市健康ウォーキングに「小島城コース」と「藤波八丁コース」を追加 コースのオープンを記念して健康ウォーキング

市健康ウォーキングの「小島城コース」(2.52キロ)と「藤波八丁コース」(2.29キロ)が新たに開設され、この日は「小島城コース」でオープン記念ウォーキングが行われました。

市には現在、(株)日本クアオルト研究所が認定したコースが3カ所あります。市民の皆さんにより親しんでいただくため、認定ではありませんが、新たに2コースを整備しました。

「小島城コース」で初めて行われた健康ウォーキングには30人以上が参加。植物や景観を見ながら休憩したり、心拍数を測って体調に問題がないかチェックをしながら歩きました。

参加した古川町の中垣和恵さんは「新たなコースと聞き、ぜひと思って友人と一緒に参加しました。いつも心拍数が上がりきらないのですが、ここは他のコースよりも高低差があって心拍数が上がりました。展望も良いし、ここも認定されるといいな」と笑顔で話していました。



5/27

## 下 賞状やお祝いの花束などを贈呈 出きみゑさん 祝百歳！万歳！



今回、100歳の賞状やお祝いの花束などを贈呈させていただいたのは、神岡町船津の下出きみゑさん(大正11年5月27日生まれ)です。

餅屋さんの三女として生まれたきみゑさん。52歳の時に旦那さんが亡くなられ、その後は事務仕事等をしながら、ずっと1人で頑張ってみえました。

現在は、三女さんご夫婦と3人暮らし。百人一首の会や踊りも習ったり、90代までは買い物も外へ歩いて自分で行ってみえました。まだまだ自分のことは自分でされ、何より食欲旺盛で何でも食べられるとのこと。

「尊い命を頂いております、ありがとうございます」と手を合わせて感謝される姿を、微笑ましく見つめる娘さんご夫婦。温かいご家族の想いが伝わってきます。

